

羽黒遺跡 (はぐろいせき)

所在地：古河市大字前林字羽黒 2947-6 の一部ほか

調査期間：令和5年4月11日～8月31日

調査面積：2,430㎡

委託者：茨城県境工事事務所

調査原因：一級河川女沼川河川改修事業

調査機関：公益財団法人茨城県教育財団 (古河事務所)

TEL: 029-225-6587 <https://www.ibaraki-maibun.org>



HP



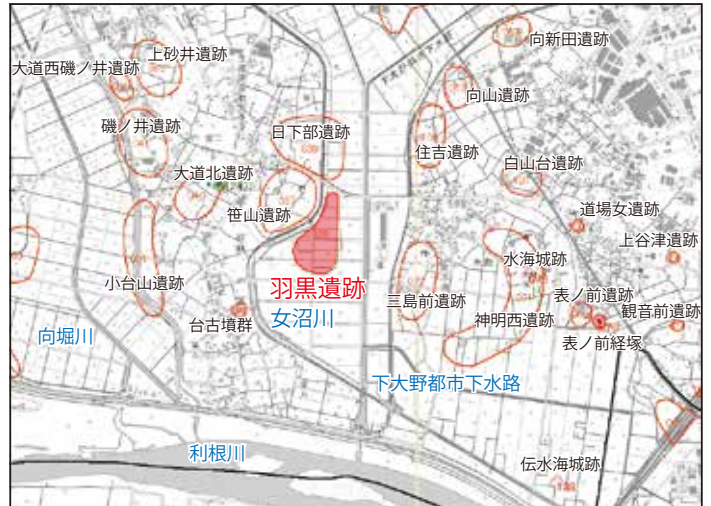
X (旧 Twitter)

遺跡の概要

羽黒遺跡は、古河市の南東部、女沼川と向堀川に挟まれた猿島台地に位置しています。干拓・耕地整備事業によって周囲は、畑や水田として利用されています。今回の調査区の南側は、平成12・13・16年度の3次にわたり、当財団が調査を行いました。その結果、旧石器時代から江戸時代にかけての複合遺跡であること、特に、古墳時代と奈良・平安時代に大規模な集落が営まれていたことがわかりました。

調査の成果

今回の調査では、古墳時代から平安時代にかけての^{たて}竪穴建物跡や、室町時代の堀跡・掘立柱建物跡・地下式^{あなたでものあと}坑などを確認しました。古墳時代以降、集落が断続的に営まれており、奈良・平安時代の竪穴建物跡からは、文字の書かれた^{ぼくしよどき}墨書土器や、東海地方で作られ、当時貴重であった^{かいゆうとうき}灰釉陶器、役人の腰帯具^{かこ}(^{かこ}鉸具)などが出土しています。こうしたことは読み書きができる識字層や役人などの存在を彷彿とさせます。室町時代の堀跡からは^{とこなめやき}常滑焼や志野焼の陶器が出土しました。堀跡は調査区の南北で2条確認し、南の堀跡がほぼ直角に折れ曲がり、規模や形状が同一のため、方形に巡る堀に囲まれた中世の館跡と考えられます。当財団で調査した事例としては、つくば市の^{しまなまえのひがし}島名前野東遺跡や^{こいずみ}小泉館跡などがあります。県内でも調査事例が少なく、貴重な発見と言えます。



羽黒遺跡と周辺遺跡 (茨城県遺跡地図に加筆)



東西方向に延びる堀跡 (調査区北部)



竪穴建物跡の調査

特徴的な遺構・遺物



「中」と墨書された須恵器坏（底部外面）



竈の補強材に土器を使用した竪穴建物跡



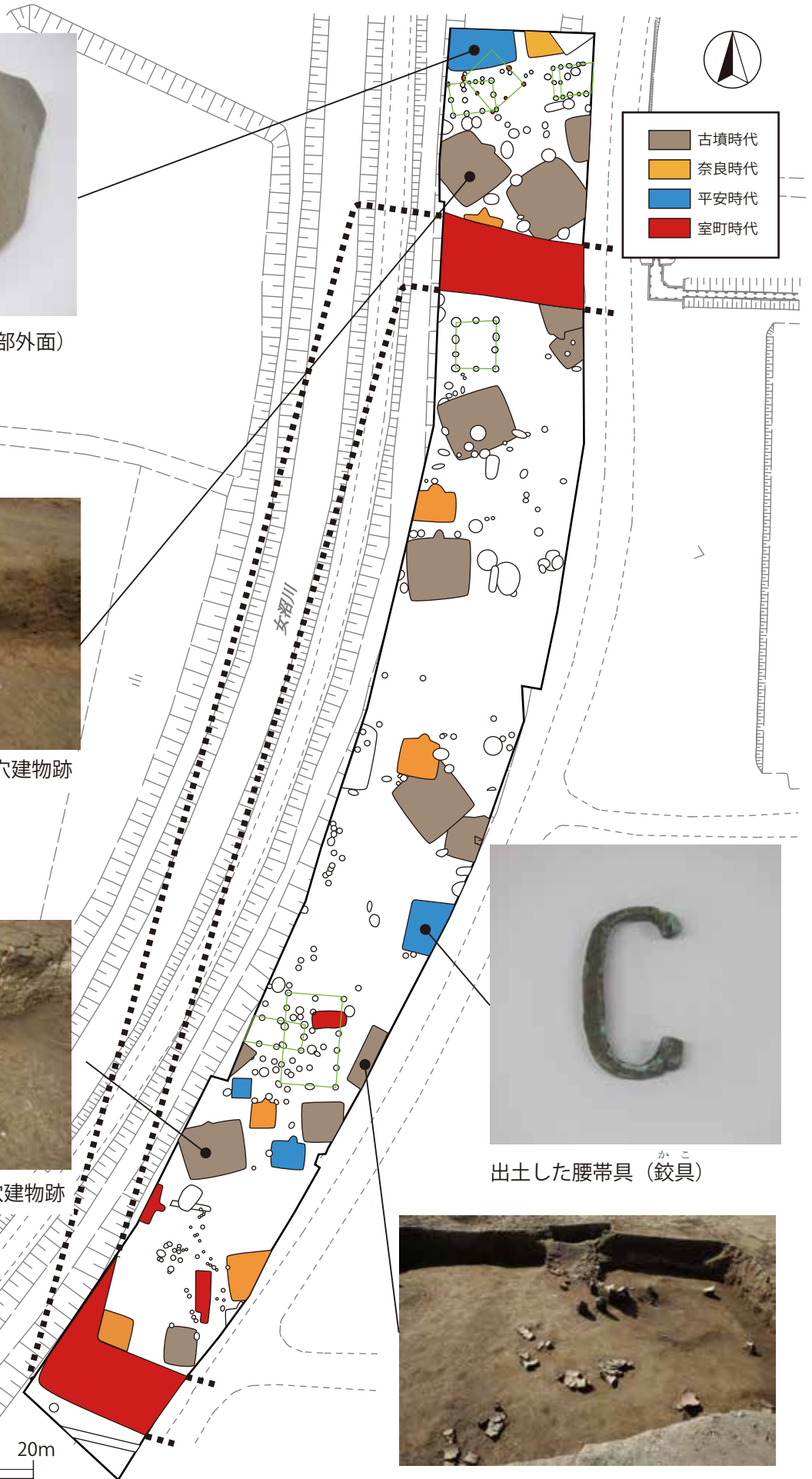
竈から多くの土器が出土した竪穴建物跡



床面から多くの土器が出土した竪穴建物跡



出土した腰帶具（鉸具）



この資料は調査中の情報であり、最終的な結果ではありません。引用・掲載はご遠慮願います。